小羊チャイルドセンター増築建物の設計について

―子供の目線と感性を大切に―

平野十三春

市川益子先生は増築趣意書で次のように述べておられます。

平成23年、小羊職員管理人として永年縁の下の働きをしながら、幼児達の心に大切な愛と言う遺産を心に残して他界しました。

愛称「おじちゃん先生」は各家庭の事情で超早、超遅の園児を家庭的雰囲気の中で保育士と共にみて参りました。そんな場所にはぐくまれた愛のこころは本人が亡くなっても一人一人の心に住みついております。その跡地にこの事が受け継がれるようと更にゆとりのある保育室を増築して情操を育てる多目的ホールとしても卒園児、地域交流、子育て相談にも応えて行ける憩いの場としての役目を果たす建物が必要と計画致しました。

設計はこの趣意書に基づいて行っています。

建物は三つの部屋で構成されています。一の部屋はおじちゃん先生を弔い、神への祈りの部屋としての空間、二の部屋は超早、超遅の園児の保育の場や卒園児、地域交流の場として空間、三の部屋は子育て相談にも応えて行ける憩いの場としての空間です。

この建物にはいくつもの特徴があります。その一つは天井のデザインと屋根の形です。

一の部屋の天井は八方から頂点にせり上がって集まる竹垂木にヨシ張りの拝み天井です。床から天井の頂点まで7.5ｍあります。ヨシ張りの施工は茅屋職人によって施工されました。

竹やヨシは成長が早く丈夫で勢い良く天空に向かって伸びる姿は子どもの生き方の象徴です。

天井の四方に天窓が付いており、夜は照明が灯されます。屋根は30度の急勾配の四方流れとなる方形の寄棟で、頂点の高さは地上から10ｍです。屋根の先頭に十字架があります。